

「助けを求めて寮を飛び出した 10 代の少女」 ～大人は誰も信じてくれない～

- Eさん
- 年齢：17 歳
- 性別：女性
- 虐待問題

【もうこれ以上いられない】

Eさんは、学校の寮の職員から寝ている間に目隠しをされ、声も出せない状態で体を触られるという虐待を何度も繰り返し受けていた。その事を他の職員に訴えたが、全く信じてもらえなかった。そして、「もうこれ以上ここにはいられない」と感じ、施設を抜け出した。わずかな小遣いで電車に乗り、東京で数日間、マンガ喫茶やファストフード店で時間をつぶして過ごした。その数日間のうちに財布ごと盗まれてしまい、所持金がなくなった。そのため少女は、その辺を歩いていた中年の男性に声を掛けては援助交際をし、一日一日をしのぐ生活を送った。そのうち大人にも嫌気がさしてしまい、何もかも嫌になり駆け込み寺にやってきた。

【解決に向けて】

寮での暴行、これは大変な事だが逃げてはいけない。私はEさんに「犯人はわかるか？」と聞くと、「わかる」という。私は即、寮に電話を入れた。「そちらの寮に入っている生徒が逃げて来た。職員から寮でこんなことをされたと言っている」と職員に訴えた。しかし相手は「その子はよくウソをつく子だから」とか「窃盗癖があってよく補導されている問題児だから」などと言ってくる。

「まずは子どもの言うことを聞いてあげないといけないんじゃないか。話もろくに聞かずにウソだの何だの疑うなんて、筋が違うじゃないか」と私は怒る。しかしそれでも、「犯人がわからないし、どうしようもない」としらを切るから、「当直名簿と担当者も調べてみたらどうだ。何人が該当者がいるだろう。調べる気がないなら私がやるよ。」とまで言った時、ようやく向こうは真剣になった。そうやって事件を公にすることで、犯人は二度となくなる。何も犯人をとっちめするためだけではなく、それが予防になる。担当職員は異動が決まったあとに自ら依願退職したとのことだ。Eさんには「また同じような事があたらうちに来い」と、最後のホットラインになることを伝えた。

【ここがPOINT】

このケースのように、養護施設でも家庭においても性的虐待を受けている子どもは多い。性的虐待を受けてきた子どもに対し、「とりあえず帰りなさい」などと連れ戻してはいけない。こんな時、大人は真剣に怒り、若い子の目の前で大人は大人の喧嘩をしてあげることが大切だ。大人は口先だけで「信じてる」と言ったりして真剣に取り合わなかったりする。だけど私は「よし、本当だな」と信じて、もしその子が嘘をついていても突っ込んでいく。私が真剣に怒っていると、傍で聞いているEさんは、「うわ、怖いオッチャン」と言いながらも、頼もしいと思っている。その子のことを思って真剣に闘ってくれる大人がいる。それを見せることが大事なのだ。その子を信じて抱きとめたら、とことんやらないといけない。子どもたちは、それで「よし、生きていこう」「世の中ってそう悪いもんじゃない」「泣き寝入りせずに闘えばいいのだ」と思えるようになる。それが大事なのだ。



7月27日(日)AM10:00~10:30、ラジオ「文化放送」に玄秀盛が出演しました。これは、医師・作家の鎌田實さんと、元NHKエグゼクティブアナウンサーの村上信夫さんとの対談でした。

駆け込み寺のこれまでの活動と、現在計画中の、刑務所を出所した方の社会復帰を手伝う「出所者居酒屋」構想などについて、玄は語りました。